山口県高院協会会報 2013 10月号 No.41

- ●発行日 平成25年10月1日 ●発行所 社団法人山口県病院協会 〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号 ●電話 083-923-3682 ●FAX 083-923-3683

- ●発行人 木下 毅
 ●印刷所 大村印刷株式会社
 ●メールアドレス info@yha.or.jp
 ●ホームページ http://www.yha.or.jp



山口県厚生農業協同組合連合会 小 郡 第 一 総 合 病 院

 $\mp 754 - 0002$

山口県山口市小郡下郷862番地3

電話 083-972-0333

FAX 083-973-4909

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	5ページ
医療懇話会報告	6ページ
医療経営講習会報告・諸会議報告	7ページ
研修会報告	8ページ
事務長部会コーナー	9ページ
お知らせコーナー	10ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



山口県厚生農業協同組合連合会 小郡第一総合病院 病院長 十井一輝

当院は山口県中央部における地域中核病院として、総合病院の機能を有しながら得意とする専門診療科である整形外科(手外科、関節外科、脊椎外科)を積極的に展開しています。

年間平均2,500例の手術を行ってきておりますが、この数は同規模病床の病院では、 突出して多く、もはや旧手術室ではその数をこなす時間的・空間的余裕がなくなりまし たので、最新の設備を整えた新手術室を昨年1月に完成させました。当院の特化医療で ある四肢救急外傷治療においても、緊急手術の受け入れなど益々の貢献ができるものと 確信しております。

また、当院では平成22年4月より人工関節センターを開設していますが、高齢化社会に伴って、高齢者の膝、股関節を始めとする人工関節症例は、昨年度200例を超えました。 山口県のトップランナーとしてのこの分野でも責務を果たしていく所存であります。人

工関節症例は、益々増加してくることと考え、専用の病室、診察室、手術室を設け、山口県には今までなかった「人工関節センター」として一貫した特化医療サービスを提供しております。

平成24年2月には総合健診センターを新設し、より多くの皆様の健康を生涯に渡りサポートできるよう体制を整えております。

現況に満足することなく、皆様の期待にそった診療、手術ができるように日々、研鑽してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

山口県厚生農業協同組合連合会 小郡第一総合病院の現状

1) 概要

住 所 山口市小郡下郷862-3

病院長 土井 一輝

診療科 消化器内科、循環器内科、糖尿病・血液内科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科

病床数 182床 (一般)

職員数 391人

センター機能 人工関節センター、日帰り手術セン ター、総合健診センター、人工透析 センター

併設施設 訪問看護ステーション、居宅介護支援事 業所、院内保育園

> 介護老人保健施設(入所定員50名・通所 定員40名)

2)沿革

昭和23年6月 開設

昭和26年8月 公的医療機関の指定を受ける 昭和59年7月 「小郡第一総合病院」と改称 平成14年4月 オーダリングシステム導入

平成19年5月 電子カルテ導入

平成23年12月 増築工事完成(病棟・手術室・総合

健診センター)

3)特徵

当院は、厚労省の「外国人医師臨床修練指定病院」の認定を平成9年より受けており、常時2~3名の国外からの研修医師が、手外科、マイクロサージャリーを学ぶため研修しています。

第3世界の将来有望な医師たちにも研修の機会を 与えたいとの思いで、主にアジア、中東、南米諸国 からの研修医が多くなっています。

また、国内の大学病院や主要病院から多くの医師 が研修や手術見学に訪れています。

協会役員コーナー

社会保障制度改革が動き出す



独立行政法人 国立病院機構 関門医療センター

病院長 佐栁 進

長く停滞していたわが国の社会経済状況が、昨年末の政権交代から急速度で動き出した。7月の参議院選挙では自民党が圧勝し、第二次安倍政権も盤石の安定が得られた。既に、世界のトップを切って超高齢社会になってから10年近くになる。従前の社会保障は完全に制度疲労に陥っており、避けて通れない改革に、安倍政権の強いポリシーを期待したい。

ひと時はその進捗度が心配された社会保障制度改革国民会議だが、参議院選挙前後には急ピッチで検討が進み、早速8月6日には報告書が出され、法制上の措置の期限とされた8月21日には、秋の次期国会に出される「プログラム法案」の骨子が閣議決定された。遅々として進まなかった制度改革が、まるで別の国であるかの様に動き出している。

今回の社会保障制度改革の中でも、特に難渋する改革が医療・介護改革である。そのため、国民会議報告書も多くの文量がこの分野に割かれている。しかし、最大のポイントは、その改革内容の良否にも益して、どこまで改革に実効を上げられるかにある。これまでに幾度もあった改革は、多くは霧散して良し悪しを判断するまでに至っていない。国の将来の重大な岐路に差し掛かって、利害得失に目を奪われ何も決められない国民性

を、政治は反映して来たに他ならない。超高齢化の大津波に呑まれるか、思いを固め沖に漕ぎ出すか、我々こそ 賢明な選択が求められている。安倍政権には長く続けてもらいたい。

「超高齢社会の医療対応」をテーマに、10月11日(金)12日(土)の2日間、下関で学会を開催した。本県における今後の医療・介護改革を円滑に進め、私ども医療人にとって働きがいのある地域社会の実現に、僅かでも寄与できたとしたら望外の歓びである。

急速に進む少子高齢社会の医療と地域病院の対応



綜合病院社会保険 徳山中央病院

病院長 林田 重昭

我が国における少子高齢化は2000年以前より始まっています。因みに高齢化率は1970年7.1%、1995年14.6%、2010年23.0%、少子社会は1997年以降現在に至るまで進行しています。現在は少子超高齢社会、加えて合計特殊出生率1.41(2012年)と極めて低く、更に重大なことに総人口は2004年より減少に転じています。結果として日本は国際的にも最も高度な超高齢社会(高齢率21%以上)となり、更に急速な進行(2020年29.1%、2040年36.1%)が推計され、更に長期継続するとされています。

これは15歳以上65歳未満の所謂労働人口の急速且つ長期の減少を意味します。医療・介護は労働集約型であり、多くはライセンスを必要とする知識集約型産業でもあります。加えて地域2次医療圏での地域完結型医療の推奨もあり、地域の医系労働者の不足が懸念されます。一方、多くの合併症を持つ高齢患者は増え続け、今後益々高いレベルの医療、手厚い看護等患者の希望は高くなる等、地域の病院に於いては十分な対応が困難になる可能性が危惧されます。

既に政府も労働力問題に付いては十分認識しており、特に女性労働者の参画や増員、希望の持てる労働環境の普及を目指して、2007年政府、経済界、労働界等の合意により、『仕事と生活の調和Work・Life Balance憲章』を定め国民運動を起こしています。2010年厚労省もこれを受けて、『医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進』を発表、チーム医療に於ける医師・看護師の役割分担の軽減等を提言した、更に『看護業務実態調査203項目と各職種の関わり(まとめ)』を表し、専門性を尊重した協働するチーム医療が互いの業務軽減のみならず質の高い医療を提供出来ると報告しています。

Work・Life Balance憲章は全ての労働者に対応するものであるが、現時点で最も医系労働者に適切な考えであると思われます。男女参画、専門性を尊重した協働チームによる医療の質と効率を改善、また専門性による役割分担の見直し、労働効率を考えた労働時間の設定、また情報共有しチームに参画することによるモチベーションの維持進展が期待されます。今後、地域の病院は前述した如くWork・Life Balance憲章等を念頭に置き労働者の確保や医療の質、労働効率等を検討し労働体制を構築する必要があると思います。

病院スタッフコーナー

NSTを通じた地域医療への貢献



社会保険 下関厚生病院 副院長 山下 智省

下関厚生病院の栄養サポートチーム(NST)が産声を上げたのは2001年のこと。山口県初の全病院型NSTということもあって、これまで県内のNSTを牽引してきました。

日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の一つである当院では、毎週行われるNSTラウンドには県内各地から多くの実習生が参加し、そのにぎやかなラウンド光景は「まるで白い巨塔だ」と患者さんが驚きます。

一方、高齢者や慢性疾患患者においては療養型病院、介護施設及び在宅と連結した一貫性のある栄養管理が要求され、ここに一急性期病院NSTの限界があります。その対策として地域一体型NSTの構築を目指して、下関市内の多施設と協力し「下関栄養サポートネットワーク」を立ち上げたのが2009年。臨床栄養研究会 "知らなきゃソン塾"を活動の柱として、医療・介護スタッフの啓発・スキルアップに努めてまいりました。

この研究会もすでに100回を超え、すっかり軌道に乗りました。ならば次なる展開は山口県全体に、と考えるに至るのに時間はさほど要さず、2012年、この組織は「NPO法人山口栄養サポートネットワーク」へと発展。今後は県下8つの2次医療圏を単位として、栄養管理というキーワードを軸に、各地の医療連携の充実に尽力したいと考えています。そしてこれは平成26年度に新法人「地域医療機能推進機構」に移行する当院(新病院名は下関医療センター)に課せられた使命に合致するものになると確信しています。

地域との密着及び施設を併設する病院の外来スタッフの役割



社会福祉法人恩賜財団 済生会支部 山口県済生会 湯田温泉病院 主任看護師

藤本 桂子

当院は医療療養病床142床。内科、外科、整形外科、リハビリテーション科があります。 済生会山口地域ケアセンターに所属しており、一体的に施設運営を行い済生会理念に基づき、地域に根ざした「保健・医療・福祉」の連携を強化し、高齢者、障害者(児)等 に対しサービスの質向上に努めています。

私は、10年前に、認知症ケアを学びたいと思い、グループホームが開設されるという ことで、総合病院から当センターに職場を移しました。

現在は3年前に外来に異動になり、看護師もスタッフ2名と私で業務を行っています。 看護師は30歳代の中堅で、子育てのライフイベントはありますがお互いに協力し良いチームを作ってくれています。患者層も高齢で地域の方で占めています。認知症の方も増加傾向にあり、それらの家族のサポート件数も増えています。また当院は、介護施設も併設しており、施設看護師からの相談もあり、私自身のグループホームでの経験は、施

設看護師の諸問題を理解するのにとても役に立っています。施設からの相談は、看護師は勿論ですが、介護士からのことも多く、出来るだけ相談しやすいように、また、納得できる対応を心がけています。「何かあったら相談してね。」の一言が安心感へ繋がるよう日々の関わりを大切にしています。患者さんが安心して、地域、施設で生活が送れるように、連携・協働し看護の充実に努めたいと思います。

在宅療養支援病院とは?~在宅でこその患者さんからの学び~



医療生活協同組合健文会 宇部協立病院 副院長 (地域連携在宅医療科)

立石 彰男

宇部協立病院は、平成23年度4月に「在宅療養支援病院」を届け出ています。病院開設当初から、通院困難な慢性疾患を対象に往診体制をとってきましたが、最近10年の傾向として、進行癌・呼吸器疾患・神経難病などの医療依存度の高い病像の方々が増えています。専門的診療を行なう病院から在宅への紹介をお受けすることも多くなっています。在宅へのスムースな移行のための他院からの転院という方法も当院の特徴です。

治癒困難あるいは臓器・運動機能障害の固定した患者さんが多いため、訪問看護師や薬剤師、福祉介護職などとのチームの一員として、精神的ケア、家族ケア、生活支援と連携した在宅医療を心がけています。

疼痛管理をはじめとする癌の症状緩和や、臓器補助・栄養管理における在宅医療処置(在宅酸素・人工呼吸、経静脈栄養、胃瘻栄養、持続皮下注射など)については、患者・家族の意向・要望を生かすための手段と考えて行っています。これらの医療処置の補助に

よって、希望するおだやかな在宅療養や看取りが可能となった方もいれば、その人らしい自らの対処方法で、医療者の予測をくつがえす、輝くような自宅での時間を過ごされる方もいます。それぞれの患者さんの病気に向かいあう姿勢を目の当たりにするたびに、在宅医療に携わることで患者さん・ご家族からいただく学びの大きさを実感しています。

当院は、より多くの方が希望する時期に希望するやり方で在宅療養できるように、平成24年度「在宅医療連携拠点事業」に全国105事業者のひとつとして(県下1箇所)取り組みました(宇部協立病院ホームページ参照)。その内容は、医療における連携(病院勤務医への在宅医療の紹介、など)、医療と介護の連携(退院前カンファレンス形式での多職種講習、など)、災害時対策(在宅人工呼吸患者)、市民への普及などで、多職種研修は今年度の山口県の事業としてひきつがれています。

今後も、宇部市と近隣医療圏における在宅医療の一端をになうとともに、在宅医療の推進を目標に活動してい こうと考えています。

信頼され心のかよう栄養管理を目指して



特定医療法人 南和会 千鳥ケ丘病院 管理栄養士

寺岡 恭子

当院は昭和43年、美しい瀬戸内海を一望できる温暖な気候に恵まれた岩国市由宇町に開院し、今年で創立45周年を迎えました。病床数270床で、神経科・神経内科・精神科・内科・整形外科・歯科があり、介護老人保健施設みどり荘も併設されています。「私達は心のこもった温かい医療と福祉の提供を目指します。」を基本理念とし、長期療養が必要な慢性疾患に対応した医療と福祉に力を注ぎ、高齢者医療における治療、健康の維持増進などの役割も担っています。より質の高い医療と福祉を提供するために、多職種との連携を強化し、日々業務に励んでいるところです。

患者様は、食事をとても楽しみにしておられ、献立には行事食や郷土料理を入れて季節を感じて頂き、心にも栄養を補給して頂けるよう配慮しております。地産地消の取り組みは平成17年より行い、地元産の米や旬の食材を積極的に使ったメニューは、大変喜んで頂いています。毎月発行している「食育だより」でも、食の大切さや地元の旬の食

材を紹介しております。

当院は嚥下困難の方も多く、安全においしく食事提供ができるよう、個別に嚥下の状態や嗜好に合った食事形態になるよう細やかな対応に努めております。又、褥瘡の治療においても、栄養の早期介入により栄養状態が改善され、治癒に繋がっています。

これからも、信頼され心のかよう栄養管理を目指していきたいと思います。

医療懇話会報告

平成25年6月7日(金)午後4時よりホテルニュータナカにおいて、平成25年度医療懇話会が開催された。 山口県健康福祉部から渡邉部長以下13名、山口県病院協会から木下会長以下16名が出席した。

木下山口県病院協会会長の挨拶と渡邉山口県健康福祉部部長の挨拶に続いて、平成25年度の山口県健康福祉部の事業説明があった。

その後、最近の医療を取り巻く環境が厳しい中で、協会役員の県民医療を考える立場からの活発な質疑に対して、県からは、適切な応答が行われた。



木下会長挨拶



渡邉部長挨拶

なお事前に次の質問事項の提出がなされた。

〈急性期病床数は拠点化すること(県民に高度の医療 を提供できるようにするため)で、増やすより、むし ろ、減らす方向で対応すべきと考えます。

超高齢化社会になる2025年頃には、年間死亡者数が 現在の110万人から160万人になると予想されています。 その時点では、現在の山口県の医療環境ではとても対 応できず、いわゆる、介護難民が増えることが予想さ れます。

そのようなことで、現在、山口県で、介護(自宅療養及び特老などの施設に入所している者)を受けている人達がどれくらいおられるのか。そのうち自宅療養者数、施設入所者数がどれくらいおられるのか。それが、2025年にはどれくらいになると推測されるのか。それに伴い、山口県の介護入所施設の不足数をどのように推測されているのかご説明をお願いしたい。それに対して、健康福祉部はどのような将来展望をもっておられるのかお考えをお聞かせ下さい。〉



医療懇話会風景

医療経営講習会報告

平成25年度 夏季医療経営講習会

平成25年8月23日(金)、山口グランドホテルにおいて、平成25年度夏季医療経営講習会が開催され、90名の参加があった。

講師の佐藤氏は、「病床の機能分化・連携、在宅医療・ 在宅介護」「地域における医師・看護職員等の確保」「医 療職種の業務範囲」等、具体的データに基づいて講演 された。 講習会のテーマ・講師は以下のとおり。

【講習会】

テーマ 「わが国の医療動向とその周辺環境」

講 師 厚生労働省健康局 局長 佐藤敏信 氏





佐藤敏信氏

講習会風景

諸会議報告

平成25年度 第2回常任理事会

日 時 平成25年7月5日(金) 15:40~17:00 開催場所 新山口ターミナルホテル 【承認事項】

- 1. 平成25年度収支更正予算書について
- 2. 平成25年度夏季医療経営講習会開催について
- 3. 平成25年度山口県病院栄養関係職員医療安全対策 研修会の開催について
- 4. 平成25年度中堅看護師研修会開催について
- 5. 後援について
 - ・平成25年度山口県肝疾患コーディネーター養成講習会
 - ・平成25年度医療ガス保安講習会
 - ・コンパクトなまちづくり講演会

【協議事項】

- 1. 病院実態調査について
- 2. 一般社団法人医療安全全国共同行動入会勧奨について

【報告事項】

- 1. 山口県健康福祉功労者(優良看護職員)知事表彰 について
- 2. 県各種委員会等の報告について
 - · 三浦副会長
 - 山口県予防保健協会定例理事会 山口県看護協会総会
 - ・水田副会長
 - 山口県献血推進協議会
 - ・内山常任理事 健康やまぐち21推進協議会
 - · 天津事務局長 山口県予防保健協会定例評議員会 配偶者暴力相談支援連絡協議会

平成25年度 第3回常任理事会

日 時 平成25年9月6日(金) 15:40~17:00 開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

- 1. がん検診受診促進シンポジウム後援依頼について
- 2. 山口県ケアマネジメント研究大会後援依頼について

【協議事項】

- 1. 新型インフルエンザ等対策特措法に基づく指定地方公共機関の指定について
- 2. 四県病院協会連絡協議会について
- 3. 山口県病院協会会員名簿について
- 4. 診療報酬改定に伴う要望事項について

【報告事項】

- 1. 平成25年度救急医療功労者知事表彰について
- 2. 県各種委員会等の結果報告について
 - ・木下会長
 - 山口県医療審議会医療法人部会
 - · 守田常任理事
 - 山口県公衆衛生協会第1回理事会・評議員会
 - · 天津事務局長
 - 山口労働局雇用均等行政推進委員会議

【その他】

1. 第11回日本医療マネジメント学会第12回九州山口 連合大会について

平成25年度 第2回情報管理委員会

日 時 平成25年9月24日 (火) 15:00~17:00 開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

- 1. 10月号の発行について
- 2. 新年号の発行準備について

研修会報告

平成25年度 病院栄養関係職員医療安全対策研修会

平成25年9月3日(火)山口県総合保健会館多目的ホールにおいて、山口県病院協会と山口県栄養士会との共催で、病院栄養関係職員医療安全対策研修会が開催され257名の参加があった。

各講師からは、食中毒予防のための正しい衛生管理の方法や、心とからだにやさしさと栄養を与える商品開発への取り組み、おいしく食べるための口腔ケアの方法等について講演があった。参加者は熱心に耳を傾けていた。研修のテーマ・講師は以下のとおり。

テーマ) 「食中毒・感染対策について」

講 師 山口大学医学部附属病院薬剤部

准教授 尾家重治 氏

テーマ) 「美味しく食べる、楽しく生きる」

講師 株式会社 ふくなお

代表取締役 楢崎美穂 氏

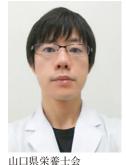
テーマ) 「おいしく食べるための口づくり~意外と

知らない口のこと、口腔ケアのこと~」

講師 山口大学医学部附属病院 歯科口腔外科 歯科衛生士 清水香織 氏



研修会風景



山口県栄養士会 医療専門部会 役員 今村 聖矢

病院栄養関係職員医療安全対策研修会を実施して

9月に実施した医療安全対策研修会は昨年に続き257名もの参加があり、賑わいを見せておりました。今回の研修会では福祉の現場で活躍されている方々も多数参加されており、患者様の安全性とQOLの向上を目的とした研修内容としました。

午前の部では「食中毒予防のための正しい衛生管理」をテーマに三大食中毒を例に挙げ、それぞれの特徴や感染経路・対策を学びました。ブラシを使用することによって黄色ブドウ球菌を要因とした食中毒を招く恐れがある事や、現在も使用されている紫外線やオゾンを使用した機器によってもたらされる人体への影響など衛生管理についての正しい知識を学ぶ事ができました。数年前までは最善だと思われていた手法も現在では意味をなさない・人体に有害であると判断されている事があります。この為、我々医療従事者は常に最新の情報を取り入れ実践し

ていく必要がある事を知る良い機会となりました。

午後の部では嚥下と口腔ケアの観点から「美味しく食べる=豊かに生きる」をテーマに、患者様を笑顔にする事がQOLの向上に結び付いていく事を学び、口腔の構造や機能、嚥下のメカニズムについて理解を深めました。

口腔内には歯・舌・口蓋・口唇があり、それぞれ重要な働きを持っています。例えば口唇が失われると 人間は口を閉じる事が難しくなります。この為、食物を飲み込むという簡単な動作でさえ困難になってし まい、食欲不振や誤嚥のリスクが高くなります。歯や舌の欠損もリスク要因になりえます。この為、患者 様が抱えている問題を理解し、状態に合わせた対応が必要なのだと改めて考える事ができました。

アンケートからも参考になったとのご意見が多数を占めており、今回の研修会が有意義なものであったと実感すると共に、それぞれの職場で学んだ知識を役立てて頂けるのではないかと思います。

企画に際しまして、ご協力頂きました病院協会様に心より感謝申し上げます。

事務長部会コーナー

平成25年度山口県病院協会事務長部会研修会報告

平成25年7月4日(木)山口グランドホテルにおいて、事務長部会研修会が開催され、63名の参加があった。

講師の平尾幸一氏は、「前方連携と後方連携は表裏一体」「これまでの病院連携と崩壊した原因」「当院の前方連携、地域医療支援病院取得へ向けた取り組み」「定期巡回・随時対応サービス」「ICTを用いた在宅医療支援」等について熱気に満ちた講演をされた。

参加者は熱心に耳を傾けていた。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「医療機関同士の協働による地域医療連携の

取り組みと課題」

~前方連携と後方連携の課題

講 師 社会医療法人財団白十字会 医療情報本部長

同会 佐世保中央病院 副院長・地域医療連携センター長

講 師 平尾幸一 氏

研修会終了後に意見交換会が開催され講師を交えて有意義な時間を過ごした。



研修会風景



平尾幸一氏



社会医療法人同仁会 周南記念病院 事務局長

橋本 雅徳

平成25年度山口県病院協会事務長部会研修会に参加して

周南記念病院事務局長の橋本です。7月4日山口グランドホテルに於いて多くの方々のご出席を頂き、盛会裏に研修会を終えることが出来ましたこと、お礼申し上げます。簡単に感想を述べさせて頂きます。

テーマは「医療機関同士の協働による地域医療連携の取り組みと課題」~前方連携と後方連携の課題~と題して、社会医療法人財団白十字会 医療情報本部長兼 佐世保中央病院副院長・地域医療連携センター長 平尾幸一氏(略歴:長崎大学医学部卒、同放射線医学教室入局、健康保険諫早総合病院・県立広島病院・北九州市立八幡病院・国立佐賀病院・長崎大学病院などを経て、平成7年9月より佐世保中央病院に勤務)よりご講演を頂いた。

平成20年2月地域医療支援病院取得(佐世保中央病院)し、平成24年度で、紹介率84.1%、逆紹介率84.3%の実績であり、この数字を維持向上するためには、

病診連携・病病連携は必要不可欠であり、そのための取り組みについて紹介された。

前方連携としては、紹介患者の受入れを確立することにより、地域の病院、診療所との信頼関係、絆が深まり、結果として後方連携も確立することにつながる。具体的には「紹介された患者は、紹介元へ返す。(開業医が安心して患者の紹介が出来る)、診療依頼を断らない。(逆紹介・在宅療養の引き受けにつながる)、紹介患者を待たせない。紹介患者の多い医療機関を大切にする。逆紹介を増やす。返書を返す。」ことを実践し、病診・病病の連携をより強固にするよう努力をしている。

これらのことが実践出来るよう医師の負担軽減(地域医療連携ネットワークの構築、院内連携ネットワークの構築、連携パスの導入、病診連携担当医師の設置、医療秘書の設置等)に取り組んでいる。

地域医療連携が必要不可欠になっている現在、佐世保中央病院の取り組みは当地域の医療連携に非常に 参考になり、意義ある研修会となったと思います。

お知らせコーナー

新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく指定地方公共機関への指定について

平成24年5月に公布された新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、当協会が山口県より「指定地方公 共機関 | に指定されることになりました。

指定地方公共機関とは、都道府県の区域において医療、医薬品又は医療機器の製造又は販売、電気等の供給、 輸送その他の公益的事業を営む法人、地方道路会社等の公益的施設を管理する法人及び地方独立行政法人のうち、 指定公共機関以外のもので、あらかじめ当該法人の意見を聴いて都道府県知事が指定するもので、国、地方公共 団体と並んで新型インフルエンザ等対策を実施する責務を有しています。

具体的には、発生時に備えて、新型インフルエンザ等対策に関する業務計画の作成等を行うとともに、発生時 には、国、地方公共団体並びに指定公共機関と相互に連携し、都道府県対策本部長(知事)による総合調整、指 示を受け、業務計画に基づき対策を実施していくことになります。

このため、指定地方公共機関は一般の事業者や県民と異なる公益性が認められ、行政に対し労務、施設、設備、 又は、物資の確保について応援を求めることができるようになります。

会員等の異動

会員の変更

· 下松中央病院 理事長 齋藤 淳 (変更前 病院長 小林 洋三) ・周南高原病院 病院長 牧角 俊郎 (変更前 理事長 齋藤 淳) ·徳山静養院 理事長 井上 武敏 (変更前 病院長 藤井 障三)

· 光中央病院 理事長 丸岩 昌文 (変更前 理事長 河内山 昇)

病院協会の主な行事予定

○11月8日 常任理事会 (会場:山口グランドホテル)

○11月29日 病院看護師長研修会 (会場:山口県セミナーパーク 講堂) ○12月5日 病院看護補助者・介護職員研修会 (会場:山口県総合保健会館 第一研修室)

○1月11日 医療関係団体新年互礼会 (会場:ホテルかめ福)

○1月24日 四県病院協会連絡協議会 (会場:山口グランドホテル)

本屋さんで、「天職」と言う本が目に入りました。放送作家であり作詞家であり、AKBの生みの 編集後記 親でもある秋元康さんと放送作家の鈴木おさむさん二人の対談集です。天職とは何か? 辞書をみ ますと 天から授かった職業。または、その人の天性に最も合った職業。例として「医を天職と心得て励む」とい う文が挙げられていましたが、これは前者の意味で使われた文だと思います。その対談集はTVやラジオ業界など でいかに仕事をして来たかについての話で、結局のところ、天職とは、本人は必ずしもその仕事が自分に最も適し ているとは思っていないが、やはりその仕事が好きで、長いこと飽きずに続けられる仕事だというものでした。医 は天職 天から与えられた仕事なのか、好きで続けているのかは別として、長く続けて頂きたいと思っています。

(名西史夫)